

# ぼくのオート

## ④3 彼のオートバイ

彼が単気筒の中型オートバイで京都に向かったのは、中古車を値切って買ったその次の日だった。やがて、アルバイトばかりの悶々とした毎日から逃れるため、憧れのナナハンを駆り、九州経由で北海道に向かった。

荷物を満載した旅ライダーとすれ違う時には、グッド・ラックのサインを左手で送り、北の大地を目指した。時には、星の下で眠ったこともあった。

類が呼んだ友は、みんないい顔をしていた。住所不定無職のような放浪人でも、会社の社長か、あるいは大学の研究者だったかもしれない。いや、ひょっとすると、強盗事件の逃亡犯ということもあり得る。それでも、バイク乗りに悪い人はいない。そんなおめでたいことを、彼はまじめに信じていた。

彼と十万里を超えたバーチカルツインは、この先どこまで行くつもりなのだろうか。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操